英文解釈 L01 第 19 講 分詞構文の意味上の主語と関係を読む

学習目標

学習目標

- 基本的な能動の分詞構文について、分詞句の意味上の主語を主節の主語と対応させて説明できる。
- 分詞句と主節の時間・同時の状況・理由の関係を、英文の内容と文脈から判断できる。
- 動作主体・対象・時制・意味関係を保ち、英文全体を自然な日本語に訳せる。

1. 分詞構文は何を付け加えているのか

解説

英文に動詞の-ing 形が現れたとき、それをすぐに「〜している」と訳してしまうことがある。しかし、-ing 形があるというだけでは、文全体の構造も時間関係も決まらない。

次の英文を考えよう。

Riku walked across the courtyard and talked with his friend.

リクが中庭を歩き、友人と話したという 2 つの内容が、and で結ばれている。

ここでは、歩きながら友人と話していた同時の場面だとし、歩いている状況を添える形で表すと、次のようになる。

Walking across the courtyard, Riku talked with his friend.

文の中心は Riku talked with his friend. である。そこに Walking across the courtyard というまとまりが付け加わり、リクが友人と話していたときの状況を表している。

ここで注目したいのは、Walking の前に Riku という主語が書かれていないことだ。それでも、歩いている人物が誰なのかは、主節の主語 Riku に戻ることで読み取れる。

このように、**分詞句を主節に結び付け、時・理由・状況などを付け加える表現**を分詞構文という。

基本の能動分詞構文

この講で扱う基本の能動分詞構文では、動詞の-ing 形を中心とする分詞句が、主節に時・理由・状況などの情報を付け加える。

分詞句の意味上の主語は、主節の主語と同じである。

「意味上の主語」とは、分詞句の動作や状態を担う人物・物のことをいう。分詞句の中に主語が明示されていなくても、誰がその動作や状態を担っているかを読み取る必要がある。

解説

先ほどの英文を、主節と分詞句に分けて確認しよう。

(Walking across the courtyard), Riku talked with his friend.

- 主節：Riku talked with his friend.
- 主節の S：Riku
- 主節の V：talked
- 分詞句（M）：Walking across the courtyard

• 分詞句の意味上の主語：Riku
Riku が「話した」だけでなく、Riku が「中庭を歩いていた」という関係になっている。

ここで使う構造表示の記号は、名詞の働きをするまとまりが〈〉、形容詞の働きをするまとまりが〔〕、副詞の働きをするまとまりが ( ) である。S は主語、V は述語動詞、O は目的語、C は補語、M は修飾語句を表す。本教材では V に下線を引いて示す。M は修飾語句の役割を表すラベルであり、省略可能であることを意味しない。

Walking across the courtyard は名詞を説明するのではなく、主節の動作が行われる状況を付け加えているため、文全体に対して副詞の働きをするまとまりとして扱う。

Riku (S) walked (V) (across 〈the courtyard〉 (M)) and talked (V) (with 〈his friend〉 (M)).
V “talked” / walked と talked は同じ S を共有する並列の V。and 自体は同時性を保証しない。

(Walking (across 〈the courtyard〉 (M))) (M), Riku (S) talked (V) (with 〈his friend〉 (M)).
M “Walking across the courtyard” / 分詞句の意味上の主語は主節 S の Riku と同一。この場面では歩行と会話が同時に行われる。

-ing 形をすべて分詞構文と考えない

-ing 形には、進行形・動名詞・名詞を修飾する現在分詞など、すでに学習した別の働きもある。

例えば、Mina is reading a novel. の reading は進行形の一部である（novel：小説）。一方、The boy carrying a red box stopped. の carrying a red box は、名詞 the boy を説明する。

これらに、分詞構文の「意味上の主語は主節の主語と一致する」という読み方を、無条件に当てはめてはいけない。

まず-ing 形が文中でどのように働いているかを確認し、そのうえで分詞構文として読む。

Mina (S) is reading (V) 〈a novel〉 (O).
V “is reading” / is reading 全体が主節の V。be 動詞と-ing 形で進行形を作っており、分詞構文の M ではない。

〈The boy 〔carrying 〈a red box〉〕〉 (S) stopped (V).
S “The boy carrying a red box” / 主節 S 全体は The boy carrying a red box。carrying は boy の動作で、a red box は運んでいる対象。carrying 句は boy を修飾し、主節 M ではない。

2. -ing 形だけでは時間と理由は決まらない

解説

分詞構文を読めるようになるには、「誰がその動作をするか」に加えて、「その内容が主節とどうつながるか」を考える必要がある。

今回扱う関係は、次の 3 つである。

関係	読み取る内容	日本語での表し方の例
時間	分詞句の出来事が起きたとき、主節の出来事が起きる	～すると、～したとき
同時の状況	分詞句の動作や状態が、主節の出来事とともに成り立つ	～しながら、～した状態で
理由	分詞句の内容が、主節の行動や判断の理由になる	～ので、～ため、～して

これらは、英語の-ing 形にそれぞれ異なる語尾が付いているわけではない。同じ-ing 形でも、表している出来事や状況によって、自然な解釈が変わる。

例えば、Walking across the courtyard, Riku talked with his friend. では、「中庭を歩く」と「友人と話す」が同じ場面で進んでいる。したがって「中庭を歩きながら」と読むのが自然である。

しかし、-ing 形を見ただけで、すべての英文を「～しながら」と訳すことはできない。

分詞句が付け加える情報の種類は、形ではなく、主節との意味のつながりから読む。

ここは覚える

この講の基本分詞構文では、次の順序で英文を読む。

1. 主節の S と V を確認し、文の中心となる出来事を捉える。
2. 分詞句の動作・状態を、主節の S が担っていると確認する。
3. 分詞句と主節の内容を照らし合わせ、時・同時の状況・理由などの関係を考える。
4. 主節の時制と動作主体・対象を守り、自然な日本語へ整える。

-ing 形そのものは現在時制を表すものではない。また、分詞句の内容が主節と必ず同時に起こるとも限らない。

解説

接続詞を使った表現を考えることは、意味関係を理解する助けになる。例えば、時間関係なら when、理由なら because を用いた文を比較することがある。

ただし、分詞構文の英文に書かれていない接続詞を、必ず 1 つ復元できるわけではない。時間と理由の両方が自然に読み取れる場合もある。

大切なのは、接続詞の名前を当てることではなく、**元の英文から読み取れる関係を、訳で過不足なく表すこと**である。

なお、意味上の主語が主節の主語と一致しない分詞構文や、完了・受動・否定などを含む複雑な形は、この講では扱わない。

3. 例題

1

場面：新しい図書館で席を探しているときの出来事。

英文

Entering the library, Miki noticed an empty table by the window.

語注

- notice：〜に気づく
- empty：空いている、誰も使っていない

a. Entering the library の意味上の主語を示し、主節との関係を 1 つの対応として説明せよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

例題 1 の解答・解説

a. 主体と主節の関係

意味上の主語は Miki である。

Miki が図書館に入る場面で、Miki が窓際の空いたテーブルに気づいたという時間関係を表す。

構造

(Entering the library), Miki noticed 〈an empty table by the window〉.

- 分詞句（M）：Entering the library
- 主節の S：Miki
- 主節の V：noticed
- 主節の O：an empty table by the window

Entering the library は、主節に時間の情報を添える副詞のまとまりである。an empty table by the window は noticed の対象となる名詞のまとまりであり、中心語は table である。by the window はそのテーブルの場所を説明している。

b. 全文和訳

直訳

「図書館に入るとき、ミキは窓のそばにある空いたテーブルに気づいた。」

満点の訳

「ミキは図書館に入ると、窓際に空いているテーブルを見つけた。」

解説

主節の noticed は過去形であり、気づいた出来事が過去のものだと分かる。これに対し、Entering は現在形ではなく、入るという動作を主節に結び付ける分詞である。

主節の目的語は an empty table by the window であり、図書館に入った対象ではない。入る人物も気づく人物も Miki であると確認すれば、動作主体を取り違えずに読める。

この場面では、図書館に入ったときにテーブルが目に入ったと捉えるのが自然である。「図書館に入ったとき」「図書館に入ると」などの表現が可能だが、入ったことがテーブルに気づいた原因だとまで強く言い切る必要はない。

©ミライコーチング

(Entering 〈the library〉), Miki noticed 〈an empty table 〔by 〈the window〉〕〉.
M　　S　V　　O

M “Entering the library” / 分詞句の意味上の主語は主節 S の Miki。Entering の対象は the library。図書館に入るときに気づいたという時間関係。
O “an empty table by the window” / O 全体は an empty table by the window。by the window は table の場所を説明する。

2

場面：外出する直前に、持ち物を選んでいるときの出来事。

英文

Noticing dark clouds over the hill, Sara picked up her umbrella by the front door.

語注

- notice：〜に気づく
- pick up：〜を手に取る
- front door：玄関のドア

a. Noticing dark clouds over the hill の意味上の主語を示し、主節との関係を 1 つの対応として説明せよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

例題 2 の解答・解説

a. 主体と主節の関係

意味上の主語は Sara である。

Sara が丘の上に暗い雲があることに気づき、それを理由として玄関のドアのそばで自分の傘を手に取ったと読むのが自然である。

構造

(Noticing dark clouds over the hill), Sara picked up her umbrella by the front door.

- 分詞句（M）：Noticing dark clouds over the hill
- 主節の S：Sara
- 主節の V：picked up
- 主節の O：her umbrella
- 主節内の場所の M：by the front door

picked up は「手に取った」というまとまりで、picked だけを主節の動作として切り離さない。分詞句の Noticing は Sara が行うことであり、dark clouds は気づいた対象である。

b. 全文和訳

直訳

「丘の上の暗い雲に気づいて、サラは玄関のドアのそばで自分の傘を手に取った。」

満点の訳

「サラは丘の上に暗い雲が出ているのを見て、玄関のドアのそばで自分の傘を手に取った。」

解説 この英文では、暗い雲に気づくことと傘を手に取ることに、自然な理由のつながりがある。外出直前に傘を選んでいるという場面も、その読みを支えている。

©ミライコーチング

ただし、Noticing という形自体に「〜なので」という意味が固定されているわけではない。「暗い雲に気づいたので」と訳すことも、「暗い雲に気づいて」と訳すこともできる。

また、雨が実際に降り始めたとは書かれていない。雨が降ったことや、Sara が不安になったことを和訳に加えない。

前の例題と同じ-ing 形から始まっていても、主節との意味関係は異なる。分詞句の形を覚えるだけでなく、主節の行動がその状況とどう結び付くかを確かめることが必要である。

(Noticing 〈dark clouds 〔over 〈the hill〉〕〉), Sara picked up 〈her umbrella〉
M　S　V　O

(by 〈the front door〉).
M

M “Noticing dark clouds over the hill” / 分詞句の意味上の主語は主節 S の Sara。Noticing の対象は dark clouds over the hill。暗い雲に気づいたことが傘を手に取る理由となる。
V “picked up” / picked up 全体で「手に取った」という主節 V。
M “by the front door” / 本教材では by the front door を、傘を手に取った場所を示す主節 M として読む。

4. 演習問題

1

場面：夕食後、家にある古い物を整理している。

英文

Opening the small wooden box after dinner, Sora found a letter beneath several photos of her grandparents.

語注

- wooden：木製の
- beneath：〜の下に
- several：いくつかの

a. Opening the small wooden box after dinner の意味上の主語を示し、主節との関係を 1 つの対応として説明せよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

2

場面：川沿いの道を通って家に帰る途中の出来事。

英文

Walking home beside the river with her brother, Emi talked about the school festival and the music club.

語注

- beside：〜のそばを、〜のそばで
- school festival：文化祭
- music club：音楽部

a. Walking home beside the river with her brother の意味上の主語を示し、主節との関係を 1 つの対応として説明せよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

3

場面：照明が消えた物置で、探し物をしている。

英文

Holding a small flashlight in his left hand, Daichi searched the dark storage room for his missing tennis shoes.

語注

- flashlight：懐中電灯
- storage room：物置、倉庫
- missing：見当たらない、行方が分からない
- search A for B：B を探して A を調べる

a. Holding a small flashlight in his left hand の意味上の主語を示し、主節との関係を 1 つの対応として説明せよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

4

場面：学校のバスケットボールの練習中の出来事。

英文

Feeling a sharp pain in her ankle, Yui left the basketball court and sat on a bench near the entrance.

語注

- sharp pain：鋭い痛み
- ankle：足首
- court：競技用のコート

a. Feeling a sharp pain in her ankle の意味上の主語を示し、主節との関係を 1 つの対応として説明せよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

5

場面：学校の教室へ向かう途中の出来事。

英文

Seeing broken glass near the main entrance, Mari used the side door to reach her classroom safely.

語注

- broken glass：割れたガラス、ガラスの破片
- main entrance：正面入口
- side door：脇の出入口
- safely：安全に

a. Seeing broken glass near the main entrance の意味上の主語を示し、主節との関係を 1 つの対応として説明せよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

6

場面：新しい歴史展示を見に行く日の行動について述べている。

英文

Knowing that the town museum closed at four, Kota left his house early to visit the new history exhibition.

語注

- town museum：町の博物館
- close：閉館する
- exhibition：展示、展覧会

a. Knowing that the town museum closed at four の意味上の主語を示し、主節との関係を 1 つの対応として説明せよ。

b. 英文全体を、構造と意味関係を保って自然な日本語に訳せ。

5. 演習問題の解答・解説

1

a. 主体と主節の関係

意味上の主語は Sora である。

Sora が夕食後に小さな木箱を開け、その際に祖父母の写真の下にある手紙を見つけたという時間関係を表す。

構造

(Opening the small wooden box after dinner), Sora found a letter beneath several photos of her grandparents.

- 分詞句（M）：Opening the small wooden box after dinner
- 主節の S：Sora
- 主節の V：found
- 主節の O：a letter
- 主節内の場所の説明：beneath several photos of her grandparents

Opening の対象は the small wooden box であり、found の対象は a letter である。

after dinner は分詞句の中で「箱を開ける」時を示している。beneath several photos of her grandparents は、手紙が見つかった位置を説明している。

b. 全文和訳

直訳

「夕食後に小さな木製の箱を開けるとき、ソラは祖父母の何枚かの写真の下に手紙を見つけた。」

満点の訳

「ソラは夕食後、小さな木箱を開けると、祖父母の写真数枚の下に手紙を見つけた。」

解説

分詞句では「箱を開ける」、主節では「手紙を見つける」という 2 つの出来事が示されている。どちらも Sora の行動である。

この場面では、箱を開けた際に中の手紙を発見したという流れが自然である。そのため「箱を開けると」「箱を開けたとき」と訳すことができる。

ただし、opening が過去形を表すから時間関係になるのではない。過去の出来事であることは主節の found から判断し、2 つの出来事のつながりは内容から読み取る。

手紙が見つかった場所は箱の中にある写真の下であり、写真そのものを見つけたという意味に変えてはいけない。満点の訳では「祖父母の写真数枚の下」と表しているが、写真がどのように並んでいたかは英文からは確定できない。

(Opening 〈the small wooden box〉 (after dinner)) , Sora found 〈a letter〉
M S V O

(beneath 〈several photos 〔of 〈her grandparents〉〕〉) .
M

M “Opening the small wooden box after dinner” / 分詞句の意味上の主語は主節 S の Sora。箱を開けた際に手紙を見つけたという時間関係。
M “beneath several photos of her grandparents” / 手紙を発見した位置。写真は複数枚だが、重なり方は指定されていない。

2

a. 主体と主節の関係

意味上の主語は Emi である。

Emi が兄弟と川沿いを歩いて帰宅している間に、文化祭と音楽部について話していたという同時の状況を表す。

構造

(Walking home beside the river with her brother), Emi talked about the school festival and the music club.

- 分詞句（M）：Walking home beside the river with her brother
- 主節の S：Emi
- 主節の V：talked
- 話題を示すまとまり：about the school festival and the music club

分詞句の中の beside the river は歩いている場所、with her brother は一緒にいる相手を表す。どちらも Walking home という動作の状況を補っている。

b. 全文和訳

直訳

「兄弟と一緒に川のそばを歩いて家に帰りながら、エミは文化祭と音楽部について話した。」

満点の訳

「エミは兄弟と川沿いを歩いて帰る途中、文化祭や音楽部のことを話していた。」

解説

最初に with her brother を見て、兄弟が Walking の意味上の主語だと考えないことが重要である。

この英文の主節の主語は Emi であり、歩く人物も Emi である。with her brother は歩くときに一緒にいる人物を補足する表現である。兄弟も一緒に歩いていたと考えるのは自然だが、分詞句の意味上の主語として対応させるのは Emi である。

また、歩いて帰ることと話すことは、同じ時間帯に行われている。「〜しながら」「〜する途中で」という日本語が適している。

主節の talked は過去形である。日本語では、同時に続いていた状況を自然に表すために「話していた」と訳すこともできるが、-ing 形が主節の過去形を現在形に変えるわけではない。

なお、her brother は文脈によって「兄」または「弟」と訳せるが、この英文だけでは年齢の上下は決められない。

(Walking home (beside 〈the river〉) (with 〈her brother〉)), Emi talked
M　S　V

(about 〈〈the school festival〉 and 〈the music club〉〉).
M

M “Walking home beside the river with her brother” / 分詞句の意味上の主語は主節 S の Emi。with her brother は同行者を示し、主体を置き換えない。歩行と会話は同時の状況。
M “about the school festival and the music club” / about は and で結ばれた the school festival と the music club の両方を話題として導く。

3

a. 主体と主節の関係

意味上の主語は Daichi である。

Daichi が左手に懐中電灯を持った状態で、暗い物置の中を探していたという同時の状況を表す。

構造

(Holding a small flashlight in his left hand), Daichi searched 〈the dark storage room〉 for his missing tennis shoes.

- 分詞句（M）：Holding a small flashlight in his left hand
- 主節の S：Daichi
- 主節の V：searched
- 主節の O：the dark storage room
- 探す対象を示す表現：for his missing tennis shoes

Holding の対象は a small flashlight であり、in his left hand はその持ち方を説明している。

主節では searched の直後の the dark storage room が、探した場所を目的語として表している。for his missing tennis shoes は、何を見つけようとしていたのかを示す。

b. 全文和訳

直訳

「左手に小さな懐中電灯を持ちながら、ダイチは見当たらないテニスシューズを求めて暗い物置を探した。」

満点の訳

「ダイチは左手に小さな懐中電灯を持ち、見当たらないテニスシューズを探して暗い物置の中を調べた。」

解説

この英文では、懐中電灯を持つことが物置を探すときの状況を表している。

「懐中電灯を持ったので物置を探した」と理由関係だけで訳してしまうと、英文が示している持ち方と探索中の状態が伝わりにくくなる。「持ちながら」「持って」と表すほうが、自然に状況を保持できる。

また、searched the dark storage room と for his missing tennis shoes を区別する必要がある。物置は探した場所、テニスシューズは探していた物である。

靴を発見できたかどうかは書かれていない。searched を「見つけた」と訳すと、英文にない結果を加えることになる。

(Holding 〈a small flashlight〉 (in 〈his left hand〉)), Daichi searched
M S V
〈the dark storage room〉 (for 〈his missing tennis shoes〉).
O M

M “Holding a small flashlight in his left hand” / 分詞句の意味上の主語は主節 S の Daichi。Holding の対象は a small flashlight。左手に持った状態で物置を探している。
M “for his missing tennis shoes” / searched の O は物置。for 以下は探している対象を示す。靴を発見したとは限らない。

4

a. 主体と主節の関係

意味上の主語は Yui である。

Yui が足首に鋭い痛みを感じたため、バスケットボールのコートを離れ、入口の近くのベンチに座ったという理由関係を表す。

構造

(Feeling a sharp pain in her ankle), Yui left the basketball court and sat on a bench near the entrance.

- 分詞句（M）：Feeling a sharp pain in her ankle
- 主節の S：Yui
- 主節の V：left / sat
- left の O：the basketball court
- sat に続く場所の表現：on a bench near the entrance

主節には left と sat という 2 つの動詞が and で結ばれている。どちらも Yui を主語とする。

分詞句の a sharp pain は Feeling の対象であり、in her ankle は痛みを感じた部位を説明している。

b. 全文和訳

直訳

「足首に鋭い痛みを感じて、ユイはバスケットボールのコートを離れ、入口の近くのベンチに座った。」

満点の訳

「ユイは足首に鋭い痛みを感じたため、コートを離れて入口近くのベンチに座った。」

解説

分詞句の Feeling は、主節の行動につながる身体の状態を表している。痛みを感じたことが、その場を離れてベンチに座る理由として自然に理解できる。

「痛みを感じて」と訳せば出来事のつながりを表せるし、「痛みを感じたため」とすれば、この文脈で読み取れる理由が明確になる。

ただし、足首を捻挫した、誰かと衝突した、医務室に行ったなどの情報は英文にはない。

また、主節の left と sat はともに過去の出来事である。「コートを離れた」と「ベンチに座った」の 2 つの行動を落とさずに訳すことが重要である。

分詞句が 1 つだからといって、主節の動詞も 1 つだけになるわけではない。主節の骨格を先に確認すれば、2 つの動作の担い手を正しく保てる。

(Feeling 〈a sharp pain 〔in 〈her ankle〉〕〉) (M), Yui (S) left (V) 〈the basketball court〉 (O) and sat (V) (on 〈a bench 〔near 〈the entrance〉〕〉) (M).

M “Feeling a sharp pain in her ankle” / 分詞句の意味上の主語は主節 S の Yui。足首に鋭い痛みを感じたことが、主節の行動の理由となる。
V “sat” / left と sat は主節 S の Yui を共有する並列の V。
M “on a bench near the entrance” / sat の場所を示す。near the entrance は bench の位置を説明する。

5

a. 主体と主節の関係

意味上の主語は Mari である。

Mari が正面入口の近くに割れたガラスを見つけ、それを理由として脇の出入口を使ったという関係を表す。

構造

(Seeing broken glass near the main entrance), Mari used the side door (to reach her classroom safely).

- 分詞句（M）：Seeing broken glass near the main entrance
- 主節の S：Mari
- 主節の V：used
- 主節の O：the side door
- 目的を表す M：to reach her classroom safely

この英文には、主節に情報を付け加える 2 つの副詞的なまとまりがある。

Seeing broken glass near the main entrance は、脇の出入口を使った理由となる状況を示す。一方、to reach her classroom safely は、脇の出入口を使う目的を表している。

後者は既習の to 不定詞の副詞用法であり、分詞構文そのものではない。

b. 全文和訳

直訳

「正面入口の近くに割れたガラスを見て、マリは自分の教室に安全に着くために脇の出入口を使った。」

満点の訳

「マリは正面入口の近くにガラスの破片があるのを見つけたため、安全に教室へ行けるように脇の出入口を使った。」

解説

この英文で押さえたいのは、理由と目的を混同しないことである。

分詞句の Seeing broken glass near the main entrance は、Mari がなぜ脇の出入口を選んだのかを理解する手がかりになる。

それに対し、to reach her classroom safely は、脇の出入口を使って何をしようとしたのかを表している。

「ガラスの破片を見つけたため」という理由関係と、「安全に教室へ行くために」という目的関係は、別の内容である。

どちらも主節の used を説明するが、同じ意味で訳してはいけない。また、Mari が実際に安全に教室へ到着したことまでは断定できない。目的を表す to 不定詞を、達成済みの結果として訳さないようにする。

(Seeing 〈broken glass 〔near 〈the main entrance〉〕〉) [M], Mari [S] used [V] 〈the side door〉 [O] (to reach 〈her classroom〉 safely) [M].

M “Seeing broken glass near the main entrance” / 分詞句の意味上の主語は主節 S の Mari。Seeing の対象は正面入口付近のガラスの破片。これが脇の出入口を使う理由となる。
M “to reach her classroom safely” / 教室へ安全に行く目的を表す to 不定詞。実際に到着したとは断定できない。

6

a. 主体と主節の関係

意味上の主語は Kota である。

Kota が町の博物館は 4 時に閉館すると知っていたため、新しい歴史展示を見るために早く家を出たという理由関係を表す。

構造

(Knowing 〈that the town museum closed at four〉), Kota left his house early (to visit the new history exhibition).

- 分詞句（M）：Knowing that the town museum closed at four
- 分詞句の意味上の主語：Kota
- Knowing の内容：that the town museum closed at four
- 主節の S：Kota
- 主節の V：left
- 主節の O：his house
- 目的を表す M：to visit the new history exhibition

Knowing の後ろには、that で始まる名詞節がある。

この名詞節の中では the town museum が S、closed が V であり、「町の博物館が 4 時に閉館する」という内容を表す。

その名詞節全体が Knowing の対象となっている。

b. 全文和訳

直訳

「町の博物館が 4 時に閉館することを知っていて、コウタは新しい歴史展示を見るために早く家を出た。」

満点の訳「コウタは町の博物館が 4 時に閉館すると知っていたので、新しい歴史展示を見るために早めに家を出た。」

解説

この英文では、Knowing の後ろに that 節があるため、主語を取り違えないよう注意する必要がある。

that the town museum closed at four の内部では、the town museum が closed の主語である。しかし、そのことを「知っている」のは博物館ではない。

Knowing という分詞の意味上の主語は、主節の主語 Kota である。

ここで 2 つの関係を区別しよう。

まず、Kota が博物館の閉館時刻を知っていることは、早く家を出る理由として自然につながる。

次に、to visit the new history exhibition は、家を出た目的を表している。

つまり、閉館時刻を知っていたことが行動の理由となり、展示を見ることが行動の目的となっている。

that 節内の closed は、過去の視点から述べられた閉館時刻の情報である。日本語では「4 時に閉館すると知っていた」と表せばよく、過去のある日に閉館したという一度きりの出来事に限定する必要はない。

また、Kota が実際に展示を見ることができたかどうかも、英文からは分からない。訪問の目的と、その目的が達成されたという結果は区別して訳す。

このように、分詞句の内部に別の主語・述語を持つ節が含まれていても、分詞自体の意味上の主語は、分詞句と主節の関係から確認する必要がある。

(Knowing 〈that 〈the town museum〉 closed (at four)〉) (M), Kota (S) left (V) 〈his house〉 (O)

early (M) (to visit 〈the new history exhibition〉) (M).

M “Knowing that the town museum closed at four” / Knowing の意味上の主語は主節 S の Kota。that 節内の closed の主語は the town museum。閉館時刻を知っていたことが早く出発する理由となる。
M “to visit the new history exhibition” / 歴史展示を見る目的を表す to 不定詞。展示を実際に見られたとは断定できない。

Knowing 〈that 〈the town museum〉 (S) closed (V) (at four)〉 (M), Kota left his house early to visit the new history exhibition.

S “the town museum” / that 名詞節内の S。Knowing の意味上の主語 Kota とは別階層。that 節全体は Knowing の内容を表す。
V “closed” / 博物館の閉館時刻についての情報。一回限りの閉館事実とは限定しない。